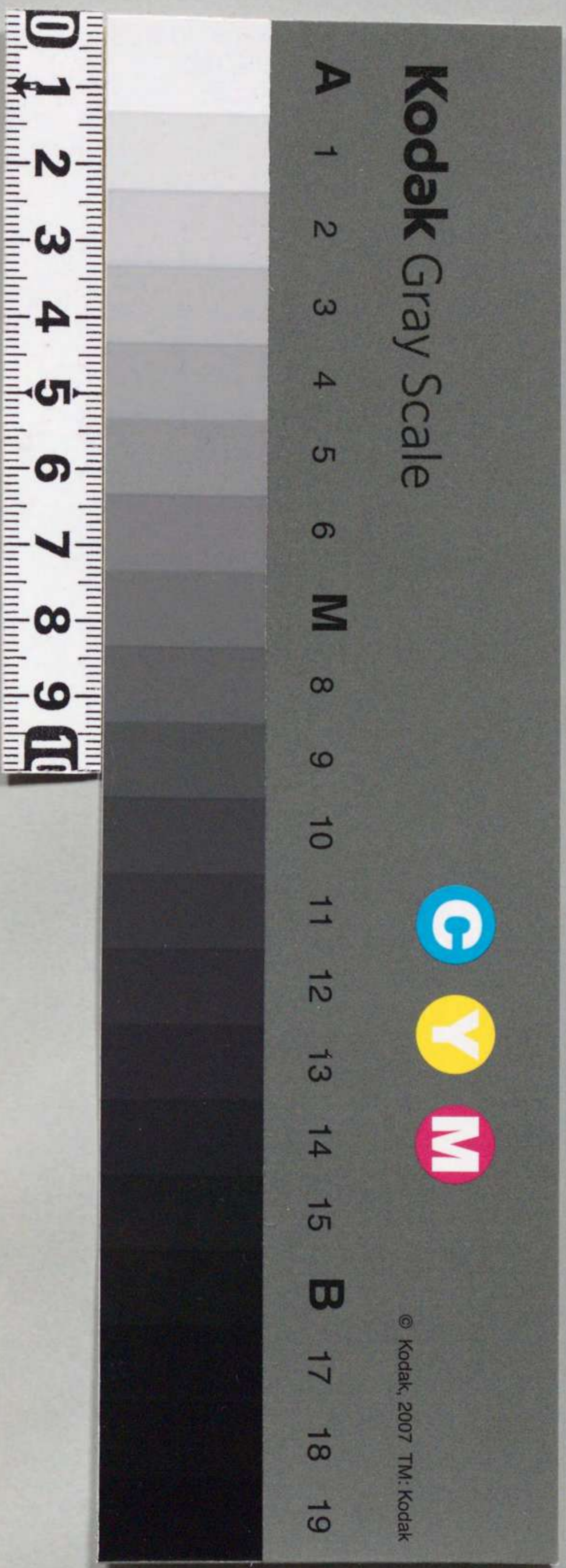


無号勅令
日露講和條約

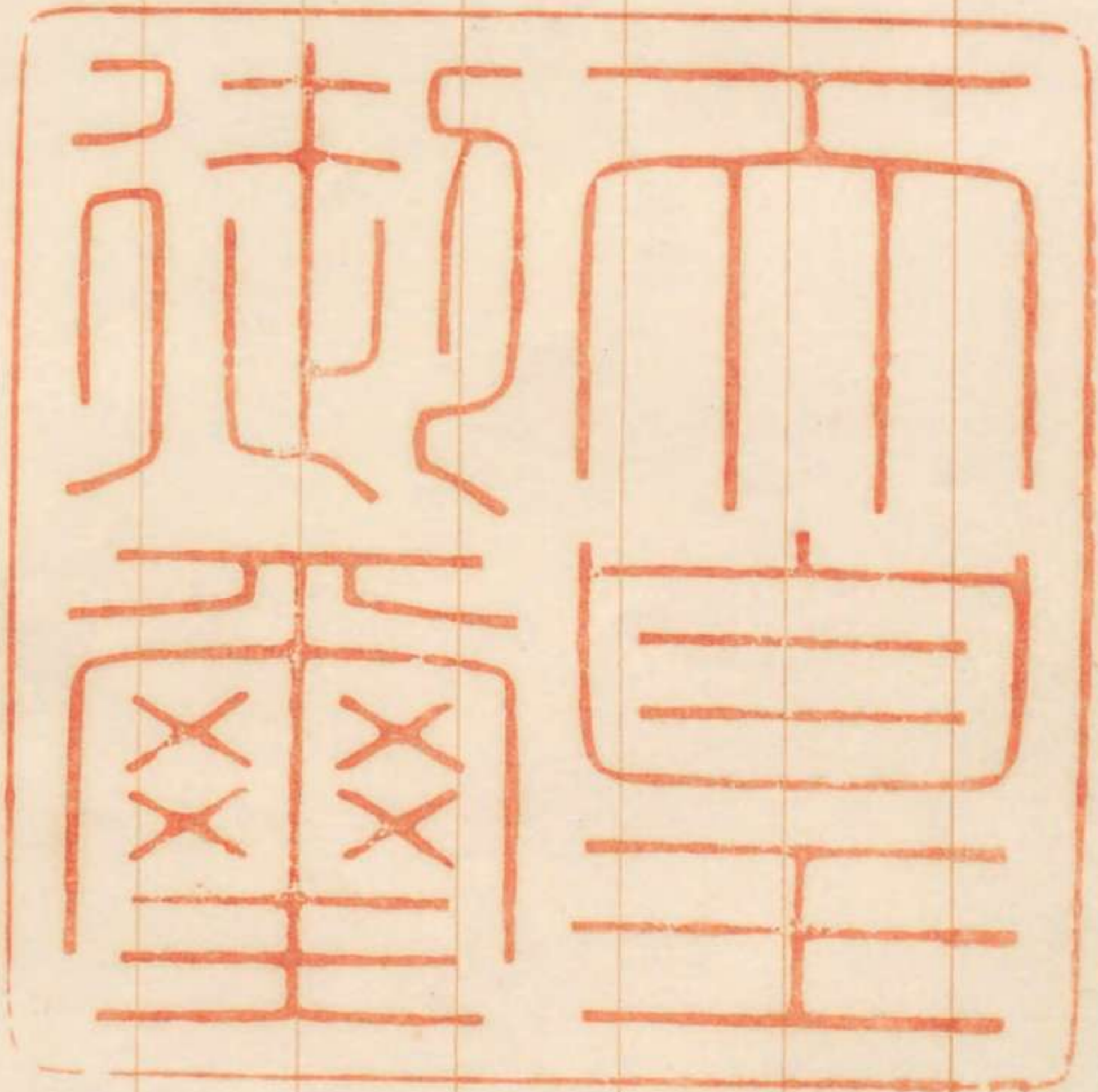
松

石

朕明治三十八年九月五日亞米利
加合衆國「ポーツマス」(ニュー・ハム
プシヤ州)ニ於テ朕カ全權委員ト
露西亞國全權委員ノ記名調印シ
タル講和條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ
公布セシム



睦仁



明治三十八年十月十六日

内閣總理大臣兼
外務大臣 伯爵 桂 太郎

日本國皇帝陛下及全露西亞國皇帝陛下
ハ兩國及其ノ人民ニ平和ノ幸福ヲ回復
セムコトヲ欲シ講和條約ヲ締結スルコ
トニ決定シ之カ為ニ日本國皇帝陛下ハ
外務大臣從三位勲一等男爵小村壽太郎
閣下及亞米利加合衆國駐劄特命全權公
使從三位勲一等高平小五郎閣下ヲ全露
西亞國皇帝陛下ハ「ブレシデント、オヴ、ゼ、コムミ
ツチー、オヴ、ミニスターズ、オヴ、ゼ、エムパイア、オヴ、ロシヤ」セクレ

月

日

タリ、オヴ、ステートセルジウ井ッテ閣下及亞米利
加合衆國駐劄特命全權大使「マスター、オヴ、ゼ、イ
ムペリアル、コルト、オヴ、ロシア」男爵「ローマン、ローセン」閣下ヲ
各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權
委員ハ互ニ其ノ委任状ヲ示シ其ノ良好
妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條款ヲ協議
決定セリ

第一條

日本國皇帝陛下ト全露西亞國皇帝陛下
トノ間及兩國並兩國臣民ノ間ニ將來平

和及親睦アルヘシ

第二條

露西亞帝國政府ハ日本國カ韓國ニ於テ
政事上、軍事上及經濟上ノ卓絶ナル利益
ヲ有スルコトヲ承認シ日本帝國政府カ韓
國ニ於テ必要ト認ムル指導、保護及監理
ノ措置ヲ執ルニ方リ之ヲ阻礙シ又ハ之
ニ干涉セサルコトヲ約ス

韓國ニ於ケル露西亞國臣民ハ他ノ外國
ノ臣民又ハ人民ト全然同様ニ待遇セラ

ルヘク之ヲ換言スレハ最惠國ノ臣民又
ハ人民ト同一ノ地位ニ置カルヘキモノ
ト知ルヘシ
兩締約國ハ一切誤解ノ原因ヲ避ケムカ
為露韓間ノ國境ニ於テ露西亞國又ハ韓
國ノ領土ノ安全ヲ侵迫スルコトアルヘ
キ何等ノ軍事上措置ヲ執ラサルコトニ
同意ス

第三條

日本國及露西亞國ハ互ニ左ノ事ヲ約ス

一 本條約ニ附属スル追加約款第一
ノ規定ニ從ヒ遼東半島租借權カ
其ノ效力ヲ及ホス地域以外ノ滿
洲ヨリ全然且同時ニ撤兵スルコ
ト

二 前記地域ヲ除クノ外現ニ日本國
又ハ露西亞國ノ軍隊ニ於テ占領
シ又ハ其ノ監理ノ下ニ在ル滿洲
全部ヲ舉ケテ全然清國專屬ノ行
政ニ還附スルコト

露西亞帝國政府ハ清國ノ主權ヲ侵害シ
又ハ機會均等主義ト相容レサル何等ノ
領土上利益又ハ優先的若ハ專屬的讓與
ヲ滿洲ニ於テ有セサルコトヲ聲明ス

第四條

日本國及露西亞國ハ清國カ滿洲ノ商工
業ヲ發達セシメムカ為列國ニ共通スル
一般ノ措置ヲ執ルニ方リ之ヲ阻礙セサ
ルコトヲ互ニ約ス

第五條

露西亞帝國政府ハ清國政府ノ承諾ヲ以
テ旅順口大連並其ノ附近ノ領土及領水
ノ租借權及該租借權ニ關聯シ又ハ其ノ
一部ヲ組成スル一切ノ權利特權及讓與
ヲ日本帝國政府ニ移轉讓渡ス露西亞帝
國政府ハ又前記租借權カ其ノ效力ヲ及
ホス地域ニ於ケル一切ノ公共營造物及
財産ヲ日本帝國政府ニ移轉讓渡ス
兩締約國ハ前記規定ニ係ル清國政府ノ
承諾ヲ得ヘキコトヲ互ニ約ス

日本帝國政府ニ於テハ前記地域ニ於ケル露西亞國臣民ノ財產權カ完全ニ尊重セララルヘキコトヲ約ス

第六條

露西亞帝國政府ハ長春(寬城子)旅順口間ノ鐵道及其ノ一切ノ支線竝同地方ニ於テ之ニ附屬スル一切ノ權利特權及財產及同地方ニ於テ該鐵道ニ屬シ又ハ其ノ利益ノ為ニ經營セララルル一切ノ炭坑ヲ補償ヲ受クルコトナク且清國政府ノ承

諾ヲ以テ日本帝國政府ニ移轉讓渡スヘキコトヲ約ス

西締約國ハ前記規定ニ係ル清國政府ノ承諾ヲ得ヘキコトヲ互ニ約ス

第七條

日本國及露西亞國ハ滿洲ニ於ケル各自ノ鐵道ヲ全ク商工業ノ目的ニ限り經營シ決シテ軍略ノ目的ヲ以テ之ヲ經營セサルコトヲ約ス

談制限ハ遼東半島租借權カ其ノ效力ヲ

及ホス地域ニ於ケル鐵道ニ適用セサル
モノト知ルヘシ

第八條

日本帝國政府及露西亞帝國政府ハ交通
及運輸ヲ増進シ且之ヲ便易ナラシムル
ノ目的ヲ以テ滿洲ニ於ケル其ノ接續鐵
道業務ヲ規定セムカ為成ルヘク速ニ別
約ヲ締結スヘシ

第九條

露西亞帝國政府ハ薩哈噠島南部及其ノ

附近ニ於ケル一切ノ島嶼並該地方ニ於
ケル一切ノ公共營造物及財産ヲ完全ナ
ル主權ト共ニ永遠日本帝國政府ニ讓與
ス其ノ讓與地域ノ北方境界ハ北緯五十
度ト定ム該地域ノ正確ナル經界線ハ本
條約ニ附属スル追加約款第二ノ規定ニ
從ヒ之ヲ決定スヘシ

日本國及露西亞國ハ薩哈噠島又ハ其ノ
附近ノ島嶼ニ於ケル各自ノ領地内ニ堡
壘其ノ他之ニ類スル軍事上工作物ヲ築

造セサルコトニ互ニ同意ス又兩國ハ各
宗谷海峽及韃靼海峽ノ自由航海ヲ妨礙
スルコトアルヘキ何等ノ軍事上措置ヲ
執ラサルコトヲ約ス

第十條

日本國ニ讓與セラレタル地域ノ住民タ
ル露西亞國臣民ニ付テハ其ノ不動産ヲ
賣却シテ本國ニ退去スルノ自由ヲ留保
ス但シ該露西亞國臣民ニ於テ讓與地域
ニ在留セムト欲スルトキハ日本國ノ法

律及管轄權ニ服従スルコトヲ條件トシ
テ完全ニ其ノ職業ニ従事シ且財産權ヲ
行使スルニ於テ支持保護セラルヘシ日
本國ハ政事上又ハ行政上ノ權能ヲ失ヒ
タル住民ニ對シ前記地域ニ於ケル居住
權ヲ撤回シ又ハ之ヲ該地域ヨリ放逐ス
ヘキ充分ノ自由ヲ有ス但シ日本國ハ前
記住民ノ財産權カ完全ニ尊重セラルヘ
キコトヲ約ス

第十一條

露西亞國ハ日本海、オコーツク海及ベ
リニング海ニ瀕スル露西亞國領地ノ沿岸
ニ於ケル漁業權ヲ日本國臣民ニ許與セ
ムカ為日本國ト協定ヲナスヘキコトヲ
約ス

前項ノ約束ハ前記方面ニ於テ既ニ露西
亞國又ハ外國ノ臣民ニ屬スル所ノ權利
ニ影響ヲ及ササルコトニ雙方同意ス

第十二條

日露通商航海條約ハ戰爭ノ為廢止セラ

レタルヲ以テ
國政府ハ現
タル條約ヲ基
約ヲ締結スルニ
關係ノ基礎トシ
ニ於ケル待遇ヲ
ヘキコトヲ約ス而
税關手續通過税及
臣民及船舶ニ對スル他ノ一方ノ領土ニ
於ケル入國ノ許可及待遇ハ何レモ前記

政府及露西亞帝
前ニ效力ヲ有シ
新ニ通商航海條
ルマテノ間兩國通商
互ニ最惠國ノ地位
ルノ方法ヲ採用ス
テ輸入税及輸出税
一方ノ代辦者
於ケル入國ノ許可及待遇ハ何レモ前記



露西亞國ハ日本海「オコーツク」海及「ベール」
リング「海」ニ瀕スル露西亞國領地ノ沿岸
ニ於ケル漁業權ヲ日本國臣民ニ許與セ
ムカ為日本國「協定」ヲナスヘキコトヲ
約ス
前項ノ約束ハ「記」方面ニ於テ既ニ露西
亞國又ハ外國臣民ニ屬スル所ノ權利
ニ影響ヲ及サシムコトニ雙方同意ス

第十
日露通商航

争ノ為廢止セラ

レタルヲ以テ日本帝國政府及露西亞帝
國政府ハ現下ノ戦争以前ニ效力ヲ有シ
タル條約ヲ基礎トシテ新ニ通商航海條
約ヲ締結スルニ至ルマテノ間兩國通商
關係ノ基礎トシテ相互ニ最惠國ノ地位
ニ於ケル待遇ヲ與フルノ方法ヲ採用ス
ヘキコトヲ約ス而シテ輸入税及輸出税
税關手續通過税及噸税並一方ノ代辦者
臣民及船舶ニ對スル他ノ一方ノ領土ニ
於ケル入國ノ許可及待遇ハ何レモ前記

ノ方法ニ依ル

第十三條

本條約實施ノ後成ルヘク速ニ一切ノ俘虜ハ互ニ之ヲ還附スヘシ日本帝國政府及露西亞帝國政府ハ各俘虜ヲ引受クヘキ一名ノ特別委員ヲ任命スヘシ一方ノ政府ノ收容ニ係ル一切ノ俘虜ハ他ノ一方ノ政府ノ特別委員又ハ正當ニ其ノ委任ヲ受ケタル代表者ニ引渡シ同委員又ハ其ノ代表者ニ於テ之ヲ受領スヘク而

シテ其ノ引渡及受領ハ引渡國ヨリ豫メ受領國ノ特別委員ニ通知スヘキ便宜ノ人負及引渡國ニ於ケル便宜ノ出入地ニ於テ之ヲ行フヘシ

日本國政府及露西亞國政府ハ俘虜引渡完了ノ後成ルヘク速ニ俘虜ノ捕獲又ハ投降ノ日ヨリ死亡又ハ引渡ノ時ニ至ルマテ之カ保護給養ノ為ニ各負擔シタル直接費用ノ計算書ヲ互ニ提出スヘシ同計算書交換ノ後露西亞國ハ成ルヘク速

ニ日本國カ前記ノ用途ニ支出シタル實際ノ金額ト露西亞國カ同様ニ支出シタル實際ノ金額トノ差額ヲ日本國ニ拂戻スヘキコトヲ約ス

第十四條

本條約ハ日本國皇帝陛下及全露西亞國皇帝陛下ニ於テ批准セラルヘシ談批准ハ成ルヘク速ニ且如何ナル場合ニ於テモ本條約調印ノ日ヨリ五十日以内ニ東京駐劄佛蘭西國公使及聖彼得堡駐劄亞

米利加合衆國大使ヲ經テ日本帝國政府及露西亞帝國政府ニ各之ヲ通告スヘシ而シテ其ノ終ノ通告ノ日ヨリ本條約ハ全部ヲ通シテ完全ノ效力ヲ生スヘシ正式ノ批准交換ハ成ルヘク速ニ華盛頓ニ於テ之ヲ行フヘシ

第十五條

本條約ハ英吉利文及佛蘭西文ヲ以テ各ニ通ヲ作り之ニ調印スヘシ其ノ各本文ハ全然符合スト雖モ其ノ解釋ニ差異ア

ル場合ニハ佛蘭西文ニ據ルヘシ
右證據トシテ西帝國全權委員ハ茲ニ本
講和條約ニ記名調印スルモノナリ
明治三十八年九月五日即一千九百五年
八月二十三日(九月五日)ポーツマス(ニューハ
ムプシヤ州)ニ於テ之ヲ作ル

小村壽太郎(記名)印
高平小五郎(記名)印
セルジ、ウ井ツテ(記名)印
ローゼン(記名)印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル
日本國皇帝(御名)此書ヲ見ル有衆ニ宣
示ス
朕明治三十八年九月五日亞米利加合衆
國「ポーツマス」(「ニュー、ハムプシヤ州」)ニ於
テ帝國全權委員及露國全權委員ノ記名
調印シタル講和條約ノ各條目ヲ親シク
閱覽點檢シタルニ善ク朕ノ意ニ適シ間
然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准

ス
神武天皇即位紀元二千五百六十五年明
治三十八年十月十四日東京宮城ニ於テ
親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 國璽

外務大臣伯爵桂太郎印

本日附日本國及露西亞國間講和條約第
三條及第九條ノ規定ニ從ヒ下名ノ全權
委員ハ左ノ追加約款ヲ締結セリ

第一 第三條ニ付

日本帝國政府及露西亞帝國政府ハ同
時ニ且講和條約ノ實施後直ニ滿洲ノ
地域ヨリ各其ノ軍隊ノ撤退ヲ開始ス
ヘキコトヲ互ニ約ス而シテ講和條約
實施ノ日ヨリ十八箇月ノ期間内ニ兩

國ノ軍隊ハ遼東半島租借地以外ノ滿洲ヨリ全然撤退スヘシ
前面陣地ヲ占領スル兩國軍隊ハ最先ニ撤退スヘシ

兩締約國ハ滿洲ニ於ケル各自ノ鐵道線路ヲ保護セムカ為守備兵ヲ置クノ權利ヲ留保ス該守備兵ノ數ハ一キロメートル毎ニ十五名ヲ超過スルコトヲ得ス而シテ日本國及露西亞國軍司令官ハ前記最大數以内ニ於テ實際ノ

必要ニ顧ミ之ニ使用セラレヘキ守備兵ノ數ヲ雙方ノ合意ヲ以テ成ルヘク少數ニ限定スヘシ

滿洲ニ於ケル日本國及露西亞國軍司令官ハ前記ノ原則ニ從ヒ撤兵ノ細目ヲ協定シ成ルヘク速ニ且如何ナル場合ニ於テモ十八箇月ヲ超ヘサル期間内ニ撤兵ヲ實行セムカ為雙方ノ合意ヲ以テ必要ナル措置ヲ執ルヘシ

第二 第九條ニ付

西締約國ニ於テ各任命スヘキ同數ノ
人負ヨリ成ル境界劃定委員ハ本條約
實施後成ルヘク速ニ薩哈噠島ニ於ケ
ル日本國及露西亞國領地間ノ正確ナ
ル境界ヲ永久ノ方法ヲ以テ實地ニ就
キ劃定スヘシ該委員ハ地形ノ許ス限
リ北緯五十度ヲ以テ境界線トナスコ
トヲ要ス若シ何レカノ地點ニ於テ同
緯度ヨリ偏倚スルノ必要ヲ認ムルト
キハ他ノ地點ニ於ケル對當ノ偏倚ニ

依リテ之ヲ填補スヘシ該委員ハ讓與
中ニ包含セララルル附近島嶼ノ表及明
細書ヲ調製スルノ任ニ當リ且讓與地
域ノ境界ヲ示ス地圖ヲ調製シ之ニ署
名スヘシ該委員ノ事業ハ西締約國ノ
承認ヲ經ルコトヲ要ス

前記追加約款ハ其ノ附屬スル講和條約
ノ批准ト共ニ批准セラレタルモノト看
做サルヘシ

明治三十八年九月五日即一千九百五年

テ 八月二十三日(九月五日)ホーヅマスニ於

小村壽太郎(記名)

高平小五郎(記名)

セルジウ井ツテ(記名)

ローゼン(記名)